

7

子浦日和山遊歩道

(一般向・家族向)

風待ち港の自然と歴史を秘めた

三方を海に囲まれた伊豆は、古くから漁業が盛んであった。各港には、漁をするために天候や潮の流れ、風の向きなどを調べるための眺望の良い山がある。この山から天気模様をみることから日和山と名づけられている。日和山の名は全国各地に残っていて、伊豆にもいくつかある。

伊豆の海岸線は変化に富み、特に南伊豆は岩礁地帯が多く、また、風が強くて、航海する者にとって最大の難所であった。

日和山と同じように航海する者に必要だったのが灯明場。今の灯台のことで、夜間の重要な道しるべであった。伊豆にあった灯明場の跡は、西伊豆田子(灯明ヶ崎遊歩道)、南伊豆長津呂(今の石廊崎灯台の所)、下田(須崎遊歩道)、伊豆河奈崎(今の川奈)と南伊豆子浦にもある。

子浦の日和山には、昔の灯台である、ひよみの灯跡がある。深い入江の妻良港は、古くから江戸と大阪を行き来する船の風待ち港として栄えたところで、日和山は港内が一望できる

高所にある。「日和山遊歩道」は子浦から落居口まで約2kmの歩道。子浦からだた上りがややきついで落居口から歩いた方がラク。

落居口へは伊豆急下田駅から伊浜行乗車。一日に数便しかない為、バスを利用する際は、宿泊を伴ったゆりのある計画が必要である。峠の茶屋前の案内板を見て茶屋



▲名勝伊豆西南海岸

脇の簡易舗装された道を上がる。右からの道と合わさった所に慈母観音がある。ここを左に上がる。右下に見える島は宇留井島である。

そのまま進み、草原の下りになると名勝伊豆西南海岸の絶景が目の前に広がる。左手の芝生広場は、その昔、灯台として使われたひよみの灯があった所だ。

ベンチとテーブルがある所からは、さらに風景が広がり、波静かな湾内に妻良の集落が望める。松やウバメガシなど海岸特有の植物が繁る細い道を下っていく。

三叉路の分岐(案内標識あり)から右へ下ると丁字路。さらに右へ石段を下って左手の岬に取りついて岬の先端へ。

海に落ち込む地蔵にころばし地蔵が3体ある。風待ち港として栄えた昔、子浦の遊女が客を引き止めるために、この地蔵を転がし、ご利益を逆に利用した遊女の知恵であった。地蔵を転がすと風が変わり海が荒れ、船出をした帆船が戻ってきたという。

三叉路の分岐へ戻り、椿林の中を進むと分岐に到着する。展望所のある場所は鏡鼻と呼ばれ、ぐっと深く入り込んだ湾内が眼下に見下ろすことが出来る。

この先の弁財天を祀った社から急な階段を上ると、覆いかぶさる



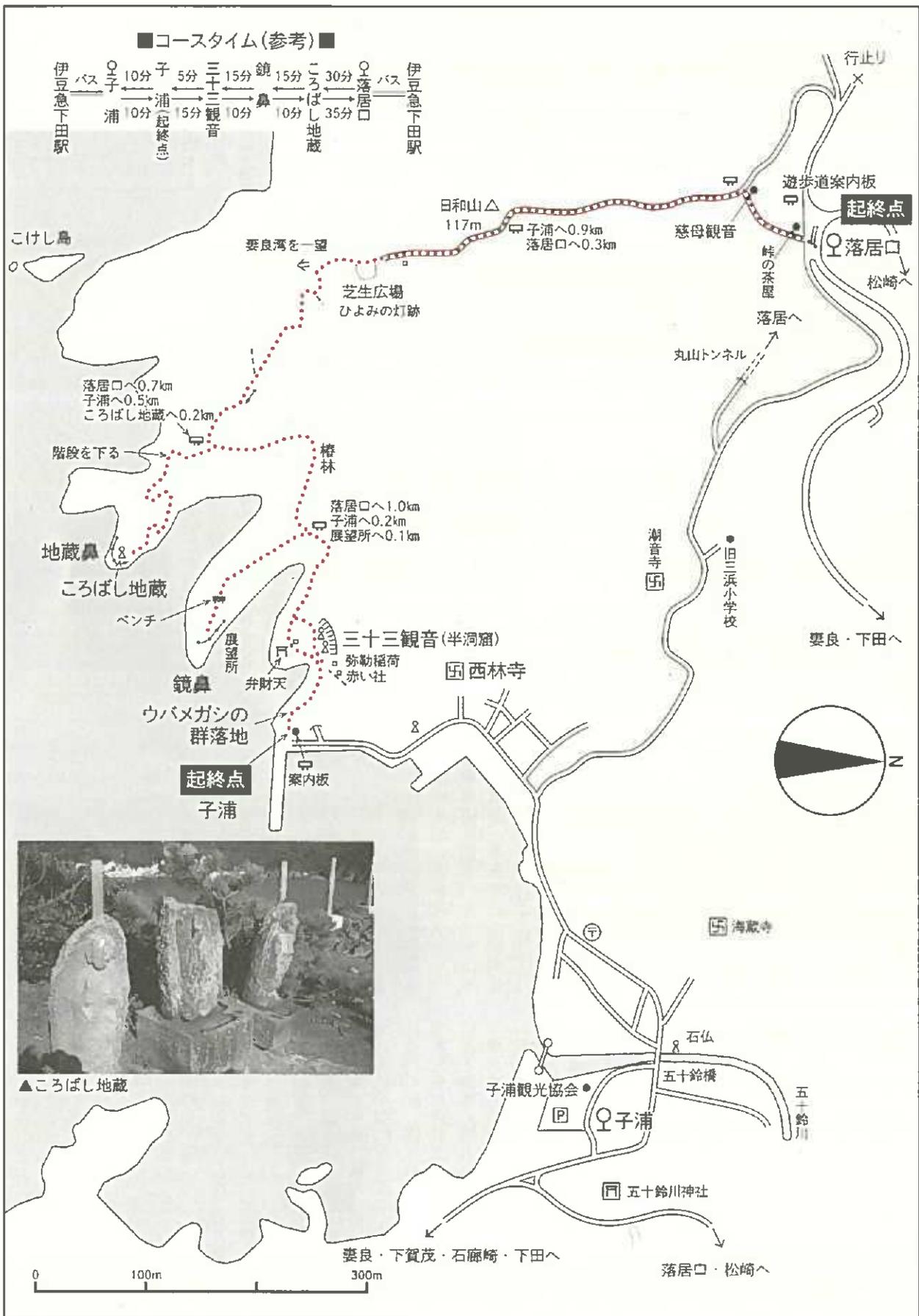
▲三十三観音

ような半洞窟に西国33ヶ所の観音霊場を模した「子浦三十三観音」と呼ばれる石仏群を見ることが出来る。中には波に洗われ原型をかわらうじてとどめているものもある。

静岡県天然記念物ウバメガシの群落を下り、子浦の漁港に出て、左に進むと西林寺がある。

西林寺は阿彌陀如来を本尊とする浄土宗の古刹。14代將軍家茂のお手植の松、小泉三申(日本憲政史上に不滅の功績を残した)の墓もある。

また、伊豆国七福神の一人、毘沙門天が祀られていて訪れている人が多い。



▲ころばし地蔵